

立命館宇治中学校・高等学校



日本の教育の枠組みを超えて 2010年4月、国際バカロレア・ディプロマプログラム実施へ 校長 汐崎 澄夫

学校の概要

本校は、源氏物語「宇治十帖」の舞台や平等院のある歴史都市、宇治市にあります。中学校は約500名、高等学校は約1170名の生徒数ですが、①中・高一貫教育だけでなく、生命科学分野から映像、国際関係分野まで13の学部を有する大学と連携した高大一貫教育や大学科目の履修制度 ②実社会で活躍する法曹界や産業界の方との連携、伝統文化や自然体験、ボランティア活動等への参加 ③中高での英語イマージョン教育やSELコースでのバイリンガル教育、中国語・ドイツ語・フランス語の履修 ④2010年度からは国際バカロレアのディプロマ取得ができるAIPコースを開始する等、特色ある教育を提供しています。

海外でも国際入試を実施していますが、英語・中国語・ドイツ語・フランス語の言語を選択して受験することができます。現在、海外の学校生活を体験して入学した生徒は、約20%、300名を越えています。また、生徒寮「フィリッツハウス」があり、高校生150人程が寮生活をしながら学んでいます。

文武両道の気風があり、文化・スポーツ活動は活発です。今年は、陸上競技、サッカー、アメリカンフットボール、ラクロス、テニス、バトン、柔道等、多くのクラブが京都府大会や関西大会で優勝し、全国大会で優秀な成績を収めています。ヴァイオリン、ピアノ、バレエ、チェス、将棋等でも素晴らしい活躍をしている生徒もいます。また、生徒たちが協力し合い自主的にクラス活動や学校行事を運営する等、のびやかに活動する生徒たちの姿が本校の誇りです。

●日本の教育の枠組みを超えて

最近、国際的な企業でも日本の若い人たちが内向きで、チャレンジ精神も弱まっているとよく耳にします。ビジネスの世界はもちろん、地球温暖化、食糧、資源エネルギー問題等、日本の内側だけで解決できない日常が目の前にあるのに、その現実立ち向かう力が劣化しているというのです。また、学界、市民団体、民間企業等では、この10年間に日本の存在感がすっかり薄れ、世界の関心は中国、インドへと向かい、そのことへの危機感も足りないのではないかと警鐘をならす人もいます。

昨今の金融危機の中で、NHKが小学生に「あなたは会社の社長になりたいですか」と尋ねたところ、56%の子供が「なりたくない」と答えたそうです。その理由は「みんなの前で謝りたくない」「倒産が怖い」というのです。一方、日本では「ゆとり」教育か「基礎学力」かをめぐって揺れていたり、「全国学力テスト」の実施や結果の公表をめぐっても議論がありましたが、教育現場では、まだ「受験の枠」や偏差値の呪縛から抜け出せていません。また、子供たちが自立（自律）し社会性を身につけていく基盤の崩壊を示す事態も進んでいます。

国際化・情報化が大きく進み、科学・技術が急速に進歩する中で、「教育」「研究」を最重点にして躍起になって改革を進めようとしているアジア諸国や欧米の取り組みを目の当たりにしている皆さんには信じられないようなことかもしれませんが、日本の子供たちを取り巻く環境は相当大変になっています。だからこそ私たちはこれまでの日本の教育の枠組みを超えて、国際性を持つ教育を提供し、子供たちの未来を作る力を育てていきたいと思っています。

